

シリーズ「放課後子ども教室推進事業」

【第69回】初中教育ニュース（初等中等教育局メールマガジン）掲載
マナビー・メールマガジン掲載

放課後子ども教室がはじまって ～小田原の小さな学校の、大きな挑戦～

小田原市立片浦小学校長 沖津芳賢

平成24年4月に、本校は小規模特認校として、19人の新しい仲間を学区外から受け入れ児童数64名の学校として、新たな一步を踏み出した。特認校初年度から多くの児童が集まるという僥倖に恵まれたのは、「少人数できめ細かな指導」や、上級生や下級生の垣根を越えた「温かな人間関係の学校」と並んで、「放課後の時間を充実させること」を学校としての魅力として打ち出したからだろう。

小田原市では市立小学校すべてに放課後児童クラブが設置され、1～3年生までの希望する児童が加入できるようになっている。しかし、4年生以上になるとスポーツクラブや習い事などに入らなければ居場所がない。大勢で安心して遊ぶ場を見つけることは難しい。しかも、加入にはそれなりにお金もかかるのが現実である。

片浦小学校の放課後子ども教室は、6年生までのすべての希望児童が加入でき、放課後に学校で遊んだり、学習したりできる。他にも、外国人講師による講座が週1回、ボランティアによる百人一首やもの作りなどの講座が不定期に開かれている。これらはすべて無料で、講座で必要なものがあるときに、教材費として実費負担するだけである。日曜祭日は休みだが、土曜日や長期休業中も開かれ、最長午後7時までいることができる。

多いときは30名前後の児童が参加し、はじめに学習時間が設定され、宿題などをする児童が多く、その後、講座に参加したり運動場や体育館で遊んだりして、帰る時刻も自分で決めている。

まだ始まって半年余り、指導員の数に対して参加児童が多いときには目が行き届かないことがあったり、自分で下校する児童への安全に配慮し切れなかったりと、課題も抱えている。しかし、子どもたちにとって放課後、テレビやゲーム機でなく、大勢の友だちと遊ぶ機会は、この上なく楽しいひとときに映る。小規模校だからできる子ども教室であるが、小ささを最大限活かした教育だと自負している。

（初中教育ニュース(初等中等教育局メールマガジン)第216号に掲載)

（マナビー・メールマガジン第43号に掲載)